

多文化の時代を生きる

在日コリアンのまなざし

—好奇心をもって学ぼう—

コリアNGOセンター理事・本会奨学生0B

キム クワン ミン

金光敏先生



嫌だった韓国・朝鮮

大阪から来ました金光敏です。私も今から30年近く前、この中に座っていた奨学生の一人でした。私は本名の「金光敏」を名乗り、あちこちでお話をします。テレビやラジオに出たり、新聞に記事を書いたりする仕事も、全てこの名前で行っています。多くの方々が私のことを在日コリアンであると分かって付き合っていたでいています。何か理解が不十分な人がいれば、丁寧に説明し理解を得るべく努力をするというのが私の役割であろうと考えています。

一方で、私が皆さんぐらいの頃は自分に自信がなくて、中学校まで日本名を使って自分を隠していました。自分が韓国人、朝鮮人であることが嫌でたまらなかつたのです。私が暮らしていた生野区は、韓国・朝鮮人、日本人に限らず、低所得者が多い地域でした。中でも、やはり在日は貧しかったです。私の家庭も父は不安定な非正規労働者で、母は内職して私を育てました。物心ついた時には、もう少し経済的に豊かな家に生まれた

かったと人の生活をうらやむようにもなりました。ですから、貧しさと自分が朝鮮半島にルーツがあることとが重なってしまい、この貧乏から逃れるためには朝鮮人であることを乗り越えて克服していかなければならぬと思っていました。今思えばこれは大きな錯覚ですが、まだ幼かった私は、そのように思っていました。

また、社会には韓国人・朝鮮人に対する差別的な言動も飛び交っていました。ヘイトスピーチが今も社会問題になっていますが、当時も露骨な、韓国・朝鮮人を蔑む言葉を平気で使う場面に幾度も出会ってきましたし、「あっちの人」や「あの人は韓国人だけでも良い人だ」などの、一見するとすっと通り過ぎてしまいがちな、でも言葉の裏に宿る差別や偏見が見える言葉にも直面させられてきました。私の周囲には、そんな現実がありました。

まともに病院にも行けない

皆さんは若い世代ですから、ピンとこないかもしれませんが、私が子どもの頃は国民健康保険証が使えませんでした。健康保

険証があれば、自己負担額は大体3割で済みます。千円かかるところも三百円で済むわけです。貧しくて保険料を納められなかったから保険証を取得できなかったわけではありません。国民健康保険を利用するにも国籍の壁があったのです。

ですから、病院にも頻繁に行けませんでしたが、熱を出すと祖母が煎じた苦い薬草を飲みました。体の滋養強壯を付け体力を高めて治すというものですから、病院の処方薬と比べると効くまでに時間がかかります。しかし、40度近く熱が出て、これは命に関わるとなれば、ようやく病院に行くのです。でも、その前に父母は必ず隣近所にどこか安い病院を知らないかと聞いて回りまわりました。病院に高いも安いもあるのかと多くの人々は首を傾げますが、実は無保険による自費診療の場合、医療機関は手数料を上乗せることができます。それによって値段が違いうため、少しでも安い病院にかかろうと、父母は必死でした。少しでも安いと聞けば、遠くてもそこに行くしかなかったのです。私の幼少期は、国籍が違うという理由

で、医療もまともに受けられない時代だったのです。

その頃と比べると、社会は随分良くなったと言えます。今を生きる皆さんが、改めてこれまでの経過をたどることは、とても大事なことです。日本の社会は突然良くなったわけではなく、在日1世・2世の方たちの血のじむような厳しい暮らしの日々や、差別との闘いの中で今日があるのだということを知ること、はとても大事なことです。

朝鮮奨学会との縁

私は大阪の府立高校に進学し、3年間、朝鮮奨学会から奨学金を受けました。当時はひと月に7千円だったと記憶していますが、3年間それをほぼ使わずに貯金しました。アルバイトのお金も含め数十万円を高校卒業後の進路の為に有意義に使うことができました。

高校卒業後の進路について、正直私は勉強が本当に苦手です。大学進学は学力が足りませんでしたし、進学させてもらえる家庭の財力もありませんでした。一方で就職するかと言えば、私は働くことに展望が全くありません。

ぶ機会を設けてくれたのです。

ただ、私はせっかくなので機会を避けました。乾先生は「集まりなさい！」と追いかけてきます。私は必死に廊下を走って逃げるわけです。撒いたかと思いつつ乾先生が仁王立ちで待ち構えているのです。今度は校舎の裏に回り、壁を越えて脱出します。ようやく逃れられたと一息入れ家に帰ると、またしてもそこで待っているのです。先生は「民族学級に行きなさい」と言ったでしょう！」と言って、私の首根っこを捕まえ、今帰ってきた道を学校までまた連れ戻して行くのです。私は大声で「助けて！」と叫びました。隣近所は何があつたのかと驚いたと思います。先生はそれも意に介さず「教員です。学校に連れて帰ります」と言って、私を引っ張って行きました。父母の前で見せる優しい姿とは全然違うのです。

当時、乾先生は同僚の先生方から強引なやり方だと批判を受けていたようです。人権を無視しているとも言われたそうです。確かに、嫌がる子どもを無理やり引っ張っていくわけですから、

んでした。なぜならば自分の将来を投影するロールモデルがなかったからです。つまり、あのようになりたい、このような仕事に就きたい、頑張れば報われるという実感がほぼありませんでした。私の周りにいる大人たちと言えば、肉体労働者ばかりで、かつ長時間で低賃金ばかり。働くとは、結局、そういう不安定な職に就くということしか頭にはないのです。ですから、展望もなく、社会に出ることはある種の恐怖であったのです。

そんな時に、ある人から韓国で勉強することを勧められ、その決意をしました。世界の様々な国に暮らす在外韓国人の若い人たちの為の教育機関があり、そこはあまり学費がかからず、なにか厳しい現実から逃避できるのではないかと考えたのです。

当時の関西支部の支部長に曹基亨先生がいらつしました。奨学会の一番困難な時期を支えて頑張ってくれた先生でした。奨学金を活用して韓国に進学したことを報告すると、曹先生は満面の笑みで喜び、私を褒めてくれました。私と朝鮮奨学会や、私と曹基亨先生を結び付けてく

そう見えます。でも私は、そこまでやってくれたから今の私があると思っています。「民族学級に行くか、行かないか？」と投げかけられれば、絶対に「行かない」と答えました。「気が変わったらおいで。また声を掛けるからね」と言われても、絶対に行くことはなかったでしょう。私は韓国・朝鮮から逃げたかった。差別されるのは自分たちが弱いからだ

れたのも、この大事な奨学金だったわけです。

私を救ってくれた先生

私が本名を使うきっかけをつくってくれたのは、中学校の時に出会った乾啓子先生でした。私の人生を大きく変えてくれた方です。乾先生のおかげで今の私があると言っても過言ではありません。

私がまだ少年の頃、とてもやんちゃで、学校から頻繁に親が呼び出されていました。すると、母は「本当にすみません。私が悪いのです。」と先生たちに頭を下げて謝りました。私はその姿にいつも怒っていました。とうとうか自分の家族がみじめに感じられました。私が悪さをするのから晩まで働き詰めです。人よりも少ない賃金で働いているから、人よりも長く働かないといけないのです。そんな父母に、「今日もあなたの子どもは人に迷惑を掛けました。よく言って聞かせてください。」と注意します。でも、生きていくこともままならない現実の中で、通り一遍のことを語っても、両親だつてどう

今度は私が乾先生に

私は今、さまざまな困難を抱えている子どもたちを支援する仕事をしています。これまで出会ってきた子どもたちの中には、どこにも親身になつてもらえず、たらい回しにされ、私のところに連絡が来た時点ではとても深刻化しているケースも少なくありません。子どもが警察に逮捕さ

誰かのために立ってあげられる時が必ず来ます。



と思っていたし、日々の厳しい生活はただ我慢するしかなく、全てのしんどさは自分が韓国・朝鮮人に生まれたことに原因があるのだと思ひ込んで生きてきました。そんな私に、民族学級に行くかと問われても、行く選択をするはずありません。乾先生はそれを分かっているから、あえて少々強引にでも私を民族学級まで連れて行ったのです。

れたと泣きながら電話がかかってきたりします。もっと前に適切に支援をしていたら、そこに行く前に救えたはずなのにと感じることは多いです。児童虐待の事例では、ゴミだらけの家の中に5歳の男の子が置き去りにされ、マーガリンを舐めて飢えをしのいでいたこともありました。これはもはや命にかかわります。

すればいいのかわからないのです。弱い立場の両親に高みから「しっかり育てなさい」と言われている、その姿は私にはとても屈辱的でもありました。

でも、乾先生は違いました。家庭訪問に来て、私のいいことしか言いません。本当は言いたいことがたくさんあったはずですが、それを我慢して、「優しい子です。」「なかなか見どころがある。」と言って帰っていくのです。私は救われました。でも、私以上に救われたのは父母だったと思います。貧しく苦しい生活の中で、必死に歯を食いしばり生きている父母が、最も救われたのではないかと思います。私には厳しかったけれども、父母には非常に優しい先生でした。

もう一つ、乾先生が私にしたことは「民族学級」です。聞き慣れない言葉かと思いますが、大阪の公立小中学校の一部で、朝鮮半島にルーツのある子どもたちを集めて、朝鮮半島の歴史や言葉などを学ぶ民族学級が取り組まれています。それをうちの学校でも始めてくれました。私たちに、差別や偏見を克服して自信をもって生きられるよう学

困難な子どもたちと出会う中で、いつも自分自身に語り掛けることは、今度は私が乾先生になる番だという決意です。乾先生に私は救われたのです。少々強引であつたとしても、私のことを心底心配して、昼夜関係なく走り回ってくれたことを思い出しながら、今、子どもたちの援助をしています。

子どもたちの支援は多岐にわたります。大阪・難波という繁華街の一角で、「MINAMIこども教室」を開いています。教室には、フィリピン、中国、タイ、ブラジル、韓国など外国ルーツの子どもたちが通ってきます。母子家庭や父子家庭が多く、親が賃金の高い夜の仕事に就いているケースが多いです。その場合、子どもは家で一人、あるいは兄弟姉妹で過ごすことになり、夜の見守りをしようということから始まった教室です。

在日コリアンの金さんが、なぜフィリピンや中国やブラジルの子どもたちの支援をしているのかとよく聞かれます。同じ国や民族しかサポートしないという短絡的な見方もどうかと思いますが、私は彼女・彼らのこと

が他人事には思えないのです。

例えば、小学5年生のフィリピンの女の子が私に高校には行かないと言いました。その子が自らの生活の中で出会う大人たちの多くが歓楽街で働き、夜には着飾って出て行きます。自らの母親も、その母親を頼って集まってくる同郷の女性たちも皆そうです。そんな中で、女の子が自らの将来の選択肢に「どうせ私もそうなる」と考えるのも無理はありません。その子のつぶやきに触れながら、かつての私の姿と重なりました。

また別の子は、フィリピンの名前が恥ずかしいから日本名が欲しいと言いました。私が子ども頃、韓国人・朝鮮人だとばれるから日本名を名乗ったことと同じでした。かつての私たちが社会の無関心や無知、偏見、差別に苦しんだように、今度は登場人物がフィリピンや中国やブラジル、タイの子どもたちに変わって繰り返されているのです。

私は、その現実を垣間見て、放っておけませんでした。事情のわからない人は、「いいことしている」「偉いです」などと言ったりもします。でも、単なるボラ

ンティア精神でやっているのではなく、三、四十年前に経験したあの苦しい思いを、今再び多文化の子どもたちに強いている現実を怒っているのです。あるいは私は傷ついていた過去の自分を取り戻すような気持ちで子どもたちの支援に携わっているとも言えます。

私の宝物

私は子どもの頃、自分が韓国人・朝鮮人に生まれたことを不幸だと思っていました。でも、あれから長い歳月を経て、今は在日韓国人・朝鮮人に生まれて良かったと思っています。振り返ると、差別や偏見にずいぶん苦しみ、社会の無理解や無知にじたばた足踏みしても聞いてきました。当時は大変であつたけれど、いま思えば、それらの経験もすべて私の宝物です。つまり常に私の目線、まなざしは少数者の側に立つことを教え、学ばせてもらったのです。

例えば今、日本で災害が増えています。地震や台風被害に遭い、避難生活をしている人々がいます。そんなニュースに触れると、真つ先に、日本語が分か

らない外国人はどうやって避難しているだろうか。障害者や高齢者は？ 施設の子どもたちは避難できたのだろうか。社会の中で押しのけられやすい人々の存在に目がいきます。これは、私の生い立ちから来た、磨かれた感性なのです。

社会の中でマイノリティとして生きる、少数者の立場として生きることは決して容易いことではありません。また若い皆さんには重荷かも知れません。でも、人は困難を乗り越えて幸せにもなれるのです。与えられ、整えられる、全てお膳立てされて生きることが幸せだとは限りません。虐げられ、苦しんだがゆえに他者の痛みに耳を傾けることができるし、視線を合わせることだってできるのです。在日コリアンである私たちにオリジナリテイがあるとするれば、まさに生まれながらにそうしたまなざしや目線を持つ機会をいっぱい得ていることではないかと思えます。

輝く10代を

皆さんは、自分が韓国・朝鮮につながりがあるということに、迷いや揺らぎ、不安を抱えてい

るかもしれません。でも、それは人生の中で見れば、必ず輝きと成って皆さんの宝物になります。人前で自分の出自を明かすことは、安心や安全がしつかりと見えてこなければ、苦しいものです。しかし、人との関係の中で、摩擦を避けて生きるよりも、むしろ摩擦の真只中に飛び込んでみてください。人よりも苦しみや悲しみをたくさん味わったからこそ、その学び、経験が皆さんを強くします。

でもそれは、一人で太刀打ちするのは難しいことです。だから、仲間が繋がるのです。この奨学会で出会った皆さんの関係性は実に尊いものです。このキャンプで絆を深めてください。皆さんが誰かのために立つてあげられる、そのタイミングがいつか必ず来ます。

皆さんはこれから夢を描きながら、一度きりの人生をしつかりと謳歌しながら生きるのです。皆さんが輝けば輝くほど、あんな風に生きたいと誰かに影響を与えられることだってできる筈です。そんな魅力ある、輝きある10代をしつかり楽しんでもらえたら、ありがたいし、期待したいです。